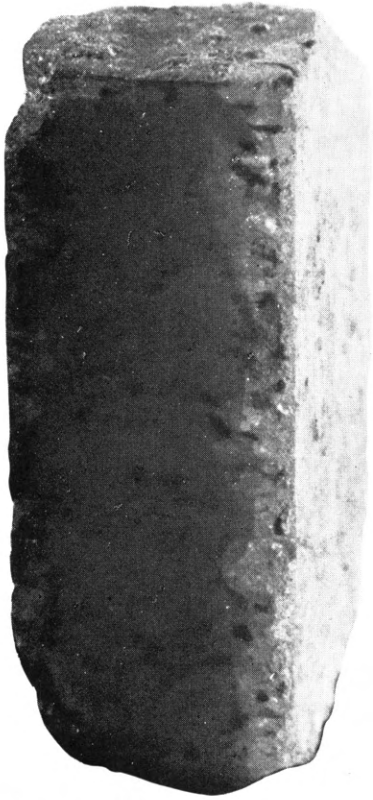


地質調査所の標本(その3)
カリ長石 Potash Feldspar

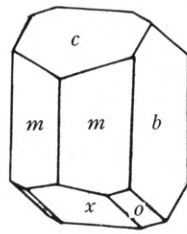


カリ長石 ×約2.2
(ドイツ ボン市付近産)

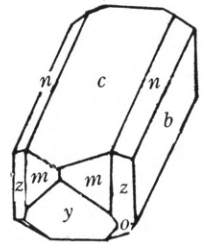
長石族 Feldspar group は火成岩・変成岩中にきわめて普通に存在し 造岩鉱物として最も重要な地位を占めている。また 熱水鉱脈に伴う場合もまれでない。

この長石族は化学成分上 (イ) $KAlSi_3O_8$ 正長石 (ロ) $NaAlSi_3O_8$ 曹長石 (ハ) $CaAlSi_2O_8$ 灰長石

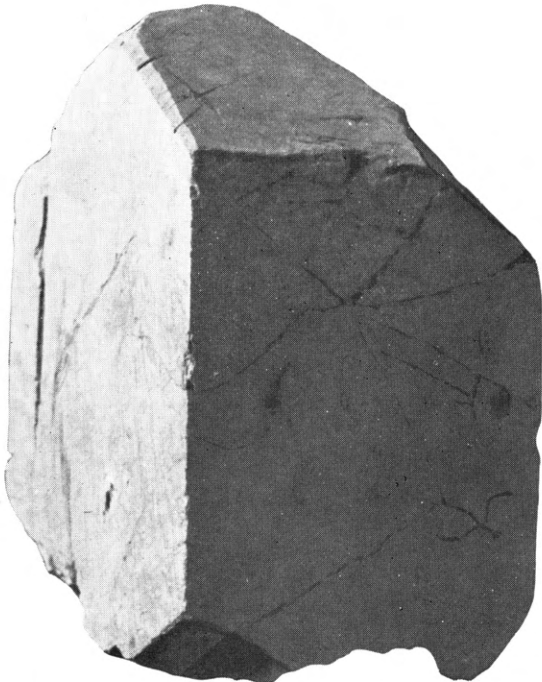
正長石の結晶



単晶



単晶



正長石 単晶 × 1/4
(福島県石川郡石川町和久産)



微斜長石 単晶 × 1
(滋賀県栗太郡下田ノ上村田ノ上山産)

の3分子の固溶体として表現され (ロ)・(ハ)の固溶体に相当する成分を持つものが斜長石であり (イ)・(ロ)間にあつて $K > Na$ のものがカリ長石と称される。

カリ長石の中で $KAlSi_3O_8$ として比較的純粋のものにハリ長石 Sanidine・正長石 Orthoclase・氷長石 Adularia があり 多少の Na_2O を混じているものに微斜長石 Microcline・アノソクレス Anorthoclase などがある。前者の一群は結晶学的に単斜晶系に属し

後者の一群は三斜晶系に属する。

カリ長石は一般に塊状または粒状を呈し 結晶形の不明瞭なものが多いが 火山岩などの斑晶 (ハリ長石・アノソクレス)・ペグマタイトの晶洞 (正長石・微斜長石)・熱水鉱脈中 (氷長石) には美しい結晶となつて産出することもある。

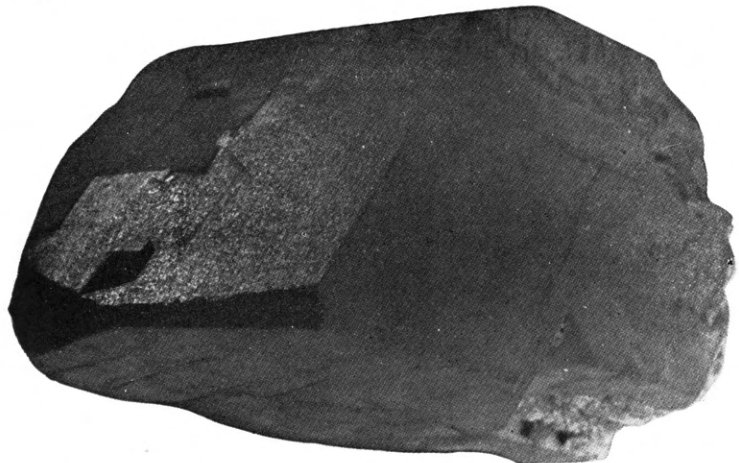
これらの結晶は単晶のもののほか 双晶をなすものも多く普通によく見られる双晶には

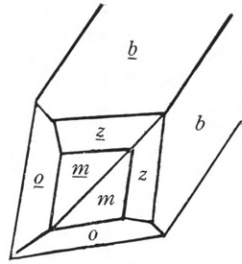
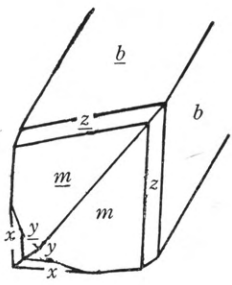
微斜長石 × 1
(山梨県中巨摩郡宮本村 黒平)



微斜長石 単晶 × 約 1.4
(岐阜県恵那郡苗木町 産)

微斜長石 × 約 0.7
(岐阜県恵那郡苗木町 産)





バベノ式双晶

カルルスバード式双晶

C軸を双晶軸とする接触あるいは貫入双晶

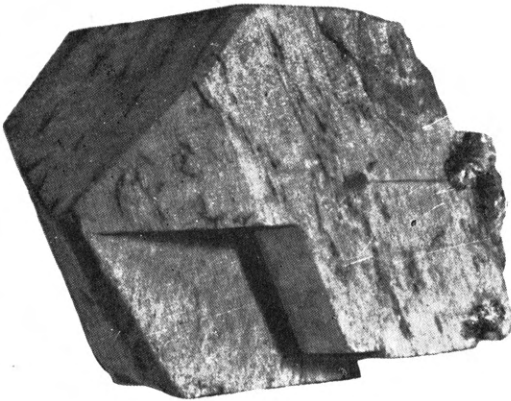
バベノ式双晶

n(021)を双晶面とする接触双晶

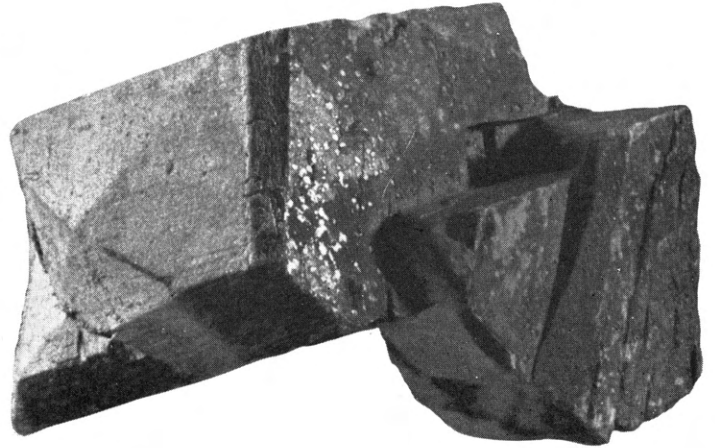
マネバハ式双晶

C(001)を双晶面とする接触双晶

などがある。



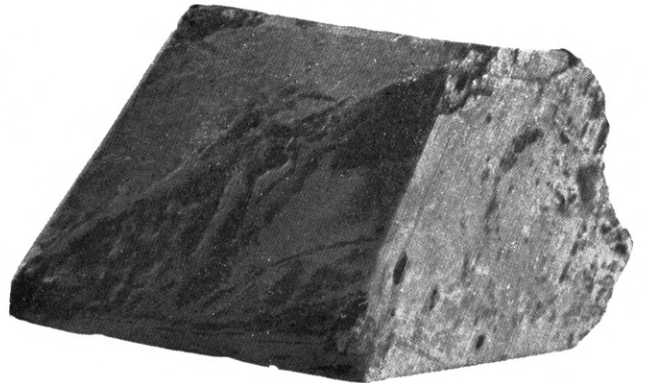
正長石 バベノ式双晶 ×約0.6
(滋賀県栗太郡下田ノ上村田ノ上山産)



正長石 バベノ式双晶 ×約0.7
(岐阜県恵那郡苗木町産)

正長石 バベノ式双晶 ×2

(長野県南佐久郡)
茂来山産



正長石 バベノ式双晶 ×約1.2
(滋賀県栗太郡下田ノ上村田ノ上山産)

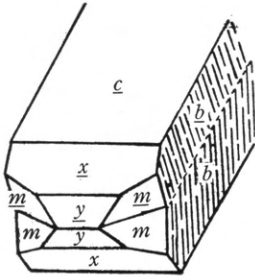
カリ長石のおもな用途は陶磁器・ホーロー製品およびガラスの原料である。このほか カリ肥料の原料として利用されることがある。 (標本室)

註 $b(010)$ $c(001)$ $m(110)$ $z(130)$
 $x(\bar{1}01)$ $y(201)$ $n(021)$ $o(\bar{1}11)$

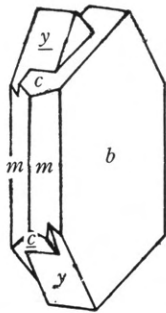
〔註〕正長石と微斜長石の識別は肉眼ではむずかしいことが多い。ここに掲げた標本も肉眼による識別のみであるから 一部には名称が適当でないものがあるかも知れない。



アノーツクレス カルスバード式双晶 ×2
 (和歌山県東牟婁郡太地町産)

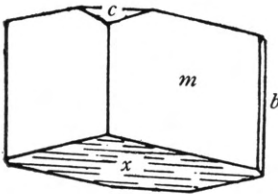


マネバハ式双晶



カルスバード式双晶

氷長石の結晶



氷長石の結晶



氷長石 ×1.7
 (福島県安達郡熱海町高玉鉱山産)